

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立沼津特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	221名				

1. 使用状況

寄贈物品名	タタラ機
使用学年及び人数	高等部陶芸班 高1～3年生 11人
使用頻度	1回の作業で30回程度 週3回 7.2時間／30時間
使用状況	<p>陶芸班の作業学習では、粘土でタタラを作り、型を使って成形し、小皿や平皿、深皿などを作成している。タタラ作りの工程において、タタラ機を使用して1回の作業時間内で30枚程度のタタラを作成することができる。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>粘土を伸ばすプレートが広く安定性があるため、大きく均一に粘土を伸ばすことができ、サンマ皿や大皿、深皿など大きな製品も良質な製品を作ることができる。また、ハンドルを回すといった簡単な工程で粘土を均一に伸ばすことができるため、知的障害が重い生徒にも活動内容が分かりやすかったり、肢体不自由のある生徒でも自分の力で均一に伸ばしたりして、良質のタタラを作ることができる。</p> <p>以前、使用していたものは、ピンが折れやすい状態になっており、教師が横について力具合を調整しなければならず、生徒が一人で作業することができなかったが、新しいタタラ機を使うことで、自分で均一にタタラを作ることができ、生徒の達成感や自信につながっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>現在、申し込み当初の目的を達成することができる。今後も、陶芸班の作業学習で引き続き使用していきたい。安定してタタラを作ることができて出来高が増えたため、試作を行うこともでき、生徒たちで釉薬の種類やかけ方を工夫した製品作りに取り組みしており、班全体の生徒の積極性につながっている。</p>
その他希望や所感など	<p>このタタラ機を使用できることで、障害が重度の生徒も達成感を感じながら自信を持って作業学習に取り組んでいます。また、安定して作業学習を展開することができ、製品の幅も広がっています。大変感謝しております。</p>

2. 活用の様子



生徒が一人で粘土をセットして、ハンドルを回し、均一に伸ばしてタタラを作ることができる。



出来上がった製品
角皿、丸皿、深皿など、幅広い製品を作ることができる。

